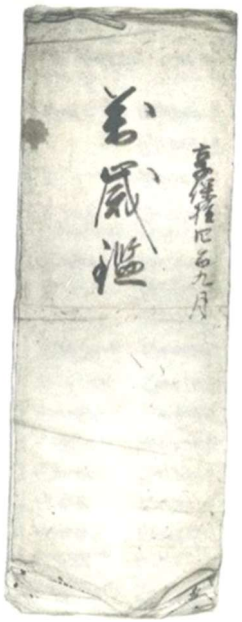
# 姫君婚礼の献上品リスト

## 万歳鑑（ばんざいかがみ）（草津宿本陣蔵）

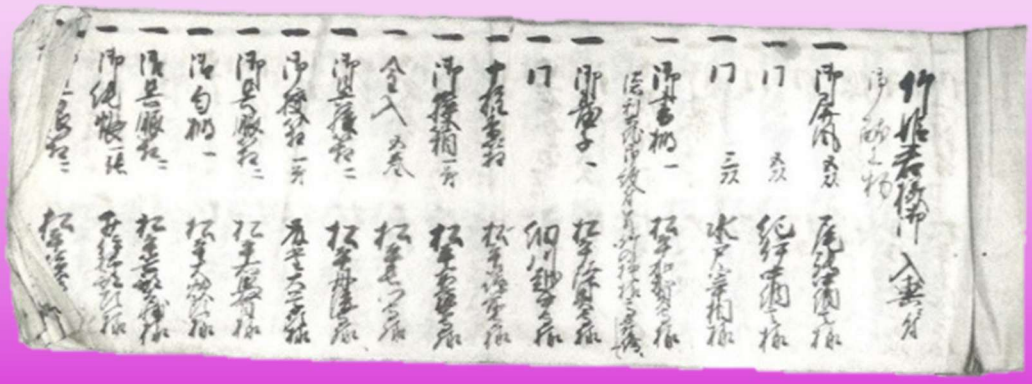


この史料は、竹姫（のちの浄岸院（じょうがんいん））が薩摩藩 5 代藩主・島津継豊（つぐとよ）と婚姻する際、各地の大名から献上された品物のリストです。260 名余りの大名らの名前とともに献上品が記されています。内容は、屏風や棚類などの室内調度、鋏箱（はさみばこ）などの道具箱、綿や縮緬（ちりめん）、茶道具、食器類、蚊帳（かや）、手拭掛（てぬぐいかけ）、双六盤（すごろくばん）など多岐にわたります。

竹姫は、宝永 2 年（1705）に公卿・清閑寺熙定（せいかんじひろさだ）の娘として生まれました。5 代将軍・徳川綱吉の側室の姪にあたり、3 歳で綱吉の養女となります。5 歳までに 2 度の縁談がありましたが、いずれも相手の急逝により婚姻には至りませんでした。将軍が 8 代・徳川吉宗になると、竹姫は吉宗の養女となりました。3 度目の縁談は竹姫が 24 歳となる享保 14 年(1729)。この時の相手が島津継豊で、縁談にあたりさまざまな条件を提示しました。吉宗はそれらの条件を許諾し、さらに竹姫の御守殿用地（ごしゅでんようち）として広大な土地を授け、各地の大名には竹姫のための婚礼調度を献上するよう、品物を指定して命じたといいます。

「万歳鑑」の表紙には「享保十四年酉九月」とあり、将軍が各大名に献上を命じた 7 月から、将軍自ら品物の検察を行った 11 月までの間に記録されています。

この時の献上品の指定について、「万歳鑑」の内容と、幕府の業務日誌『柳営日次記（りゅうえいひなみき）』の享保 14 年 7 月 21 日から 27 日までの記録がおよそ合致するため、やはり「万歳鑑」は竹姫婚姻の際の献上品のリストであるようです。

なぜこのリストが草津宿本陣に残っているのか、理由や経緯はわかっていません。これが献上を命じるにあたり品物を指定した記録なのか、あるいは実際に献上された品を記録したものであるのか、不明な点の多い史料です。一方で、『柳営日次記』では品名のみしか記載されていないものでも、「万歳鑑」では数量まで明記している例が多数見られるなど、竹姫婚姻に際する献上品について知ることのできる貴重な資料のひとつです。

（令和 7 年 9 月・草津宿本陣　川田 千紘）